



花粉症

毎年2月辺りから“花粉症”に悩む人が増えてくる。私も昨年から症状を発し、昨年の実績は、3月初旬から目がかゆくなり、4月はクシャミ・鼻水が止まらないという状態だった。

今や国民病ともいわれる“花粉症”であるが、日本で初めて花粉症事例が報告されたのは1963年だとか。戦後(1945年～)、日本が大量のスギ・ヒノキを植林してきたために、あちこちにスギ林・ヒノキ林が生まれて数十年後に大きくなり、それに伴って飛散する花粉の量が増えたというロジックも満更ではない。

特に、花粉症に悩む人は1970年以降に生まれた人に多いといわれるが、それは、高脂肪・高たんぱくで、食品添加物が含まれている食品をよく食べるようになったために食生活が変化し、現代人の特徴として、アレルギーを起こす物質に過剰に反応してしまうアレルギー体質の人が増えたからだともいわれる。

さらに、花粉症に悩む人の特徴として、都会的な環境での生活も影響しているようである。これは、花粉症とスス(車などの排気ガス)との因果関係が指摘されており、アスファルトで舗装され、交通が激しく、コンクリートの建物が立ち並んでいることを考えれば、気密性のない都会でススが蔓延し、有害物質を排除しようという免疫反応が慢性的に生じている状態で、花粉というさほど害のない異物に対しても過剰なまでの反応が起こっているのであろう(都会的な環境に住むの方が、スギ林の中に住む人よりも発症率が高いと報告されている)。

このように、都会的な病気の側面も持ち合わせている花粉症の患者であろうか、毎年この時期には、マスクをかけた人をよく見かけるはずなのだが、今年は意外と少ない。おそらく、花粉症がひどくなる前に病院で処置を施してもらっているからであろう。都会生活に慣れた人は、対策をきちんと施しているようである。

一方、私は、今年も既に目がかゆくなるという初期症状を自覚してはいるものの、病院まで足を運ぶという煩わしさのためか、症状が悪化せずに、自然と治ることを期待している。

4年前に東京に上京し、田舎生活から都会生活へと環境が変わり、都会生活への仲間入りを果たしたわけではあるが、まだまだ考え方は田舎志向なのかも知れない。

本誌が発行される頃、どういう症状になっていようか。

(岩)